

日本百名山完登を振り返って

一般社団法人 埼玉県防犯設備士協会 会長

浅香 昌敏



◆登山を始めたきっかけ

すべての始まりはモーターパラグライダーの先輩に相談したことからだった。埼玉県に住んでいながら隣県の尾瀬へ行っていたことが無かった。常日頃、一度尾瀬へ行ってみたいと思っていた。

先輩は山好きで何度か山行に誘われたが当時の私には登山は全く興味が湧かなかった。美しい景色も高層ビルか有料道路の展望台から眺めることができる。山は眺めるものであって登るものではないと思い、疑わなかった。柔道や極真空手といったパワー系の格闘技に加え、趣味はオートバイツーリング。私にはそもそも『歩く』という文化が無かった。正直、登山をする人の気持ちがわからなかった。

尾瀬はニッコウキスゲが咲き誇る7月上旬から中旬までがベストシーズンという。ネットで行き方を調べてみると、7月はマイカー規制があり戸倉から鳩待峠はシャトルバスで代替輸送とあった。ところが、1年前の情報を見ていたらしく二輪車についての規制は無かった。そこでオートバイで鳩待峠へ向かってみると津奈木ゲートで監視員に止められ、『今年から二輪車も規制対象になったから入れないよ』と言われた。二輪車で行ける駐車場を尋ねると大清水だったら可能とのことだった。大清水から尾瀬沼の大江湿原を目指すことにしてみた。これがとんでもないコースで尾瀬沼まで標高差が往復700mもあった。ハイキングと言うよりもや『登山』だった。足の痛みが3日以上残った記憶がある。

累計標高差700mのハイキングが出来るということは尾瀬の至仏山に登ることが出来るのではと考えてきた。そして翌年、マイカー規制の無い8月(2007年8月)初登山に挑戦となった。

未知の山だった至仏山も登ってみれば2時間30分で頂上に立つことができた。山頂からの展望が素晴らしかった。ピークに立つと、その山をすべて制したような不



▲尾瀬沼とニッコウキスゲ。後方は燧ヶ岳。

思議な気がした。その達成感が嬉しかった。苦労した甲斐はあると感じることができた。

◆百の頂に百の喜びあり

至仏山から始まった登山は埼玉近郊の標高差の少ない山へと続いていった。筑波山、赤城山、日光白根山など。まだまだ体力に自信が持てなかったが、やはり日本人に生まれたからには一度は富士山へ登ってみたい。次の目標は富士山になった。

そして初登山の翌年(2008年7月)、高山病に苦しみながらも富士山の山頂に立つことが出来た。感無量だった。百名山で25山目になっていた。



▲富士山頂にて(実は高山病で限界)

この頃から、どうせ山登りをやるんだったら、いっそ「日本百名山」を全部登ってみたいという目標を持つようになった。日本全国行ったことがない所に行けるのも旅好きの私に向いていたのかもしれない。

また、この間、健康診断で上限を超えていた中性脂肪とコレステロール値は正常になった。年々健康を取り戻してきたように感じる。登山から『健康』という副産物も得ることができた。

私の住む鴻巣市は主要な高速道路に近く、恵まれた環境にあったと思う。東北道、関越道（上信越道）、中央道の全てのICが30分以内で行ける。百名山が約30ある長野県は埼玉から近いので後半に廻すように計画し、夏は東北から北海道へ、秋から春は西日本方面の山々へ遠征した。

そして初登山から6年2ヶ月。2013年11月3日（京都での日防設全国大会の翌々日）ついに、その日を迎えることができた。全国大会の京都から帰った翌日（11月2日）に上高地の入口である国道158号の道の駅風穴の里で車中泊をして早朝、登山口になっている中の湯温泉へ向かった。百名山の最後は私の好きな上高地（焼岳）と決めていた。当日は遠く福岡から（株）日本防犯システムの西山様が駆けつけてくれた。西山様にお祝いの横断幕を製作していただいた。感謝感激でした。苦労を共にした西山様と焼岳のピークに立つことができた。中の湯温泉から2時間10分だった。（午後から雨予報だったので少し急いだ）念願だった上高地を見渡すことができた。



▲焼岳山頂。左が私、右が西山様、その後方が上高地

●百名山ベスト10

「日本百名山」全山を登ってみて、特に私が感動したベスト10を選んでみた。個人的な好みで申し訳ありませんが独立峰、岩稜、海が見渡せる山に偏ってしまいましたが…。（私の好きな山を選抜しただけで山の優劣を決めたものではありません）

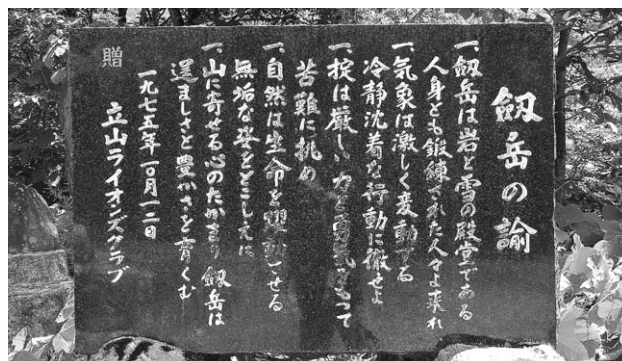
1位 剣岳（富山県）ダントツのナンバー1。試練と憧れ。岩と雪の殿堂。日本アルプス一望。富山湾が美しい。『剣岳の論』を見よ！



▲念願の剣岳山頂。後方は富山湾。



▲『試練と憧れ』の碑。『剣岳の論』の対面にある。



▲剣岳の論

2位 利尻岳（北海道） 海上に浮かぶ北の秀峰。360度の大パノラマ。



▲サロベツから見た利尻岳

3位 ハヶ岳（山梨県）日本屈指のアルペンスポット。山頂からの高度感が凄い。



▲ハヶ岳遠望（甲斐駒ヶ岳山頂から）

4位 トムラウシ（北海道）雄大な景色。自然庭園が素晴らしい。次回は旭岳から縦走したい。

5位 甲斐駒ヶ岳（長野県）北沢峠からの直登コースは危険度200%スリル満点。白砂の山頂は最高の展望。

6位 塩見岳（長野県）岩場がアスレチックで楽しい。山頂から河口湖が見える。



▲塩見岳西峰。後方に富士山

7位 鳥海山（秋田県）東北の主要な山が見渡せる。日本海の海岸線が美しい。クマを見れた。（襲われる距離ではなかった）



▲野生のクマを見た！！

8位 羅臼岳（北海道）国後島（北方領土）が見える。世界遺産知床半島が地図のように見える。

9位 鷲羽岳（富山県）北アルプス一望。特に山頂から見た槍ヶ岳と鷲羽池は圧巻。



▲鷲羽池と後方に槍ヶ岳

10位 黒部五郎岳（岐阜県）山頂からの眺めもいいが五郎のカールは底から見るべし。

以上、ベスト10ですが、4位～10位は強い順位を付けました。（2県を跨ぐ山頂は登山ルート of 県を表記）当然、そのときの天候に順位は左右された。どれも言葉にならないほどの絶景だった。

●苦勞の山

百名山のなかで一番苦勞した山は日高山脈の幌尻岳。悪天候でも額平川の渡渉がない新冠コースを選んだ。1日目に無人避難小屋まで林道18キロを5時間歩き、2日目に避難小屋から山頂を往復で8キロ。3日目にまた初日と同じ林道を18キロ、3日間で44キロ歩き切った。距離が長かったが達成感が一番だった。何故か楽しかった。



▲無人避難小屋（ボロシリ山荘）

避難小屋で京都から来た青年と出会った。12kgマウンテンバイクを担いで百名山の山頂を目指しているという。このとき44山目だそうだ。凄い体力だ。世の中には信じられないことをする人がいるものだ。



▲マウンテンバイク百名山

●失敗した山

その一方で失敗したのは新潟の平ヶ岳。前泊の登山口での車中泊で、やぶ蚊に刺され、寝不足のまま7月下旬の強い日差しの中帽子を忘れ、標高の低い東面の登山コースで朝から後頭部を照らされ体力を取られた。水場はあるが、澀んでいてが上澄みだけを掬って飲んだ。上り6時間、下り5時間。もうフラフラになって登山口へ戻った。完敗だった。車中泊でのやぶ蚊（標高720mで蚊がいるとは思わなかった）に始まり、狙った時期、装備、開始時間、水の量、体重管理等々、すべてにおいて

完敗だった。



▲真夏の低山東面登山コースは自殺行為

下山後、近くにいた人に聞くと、この山は今の時期に登るなら深夜の0時頃出発し明け方に山頂に着くような行程をとったほうがいい。もし早朝出発するなら9月から10月でないと暑くて登れないとのことだった。百名山75山目で調査（準備）不足を強く感じた。すべてを見直す必要があると感じた。この後から持ち物チェックリストを作り忘れ物のないよう仕組み作りをした。

●ブロッケン現象を体験

ブロッケン現象とは、ドイツのブロッケン山頂でよく見られることからこの名称がつけられたようだ。太陽などの光が背後からさしこみ、影の側にある雲粒や霧粒によって光が散乱され、見る人の影の周りに、虹と似た光の輪となって現れる大気光学現象。（ウィキペディア抜粋）初めてのブロッケン現象は五竜山荘だった。18時頃から20分位見えていた。五竜は前週に雪が多くて途中敗退したが、登り直してブロッケンに遭遇しラッキーだった。



▲ブロッケン現象 自分の姿が光の輪のなかに見える

◆登山は想像力

以前、スポーツクラブへ入会したことがあったが決められた場所で機械的に運動をするのはすぐ飽きてしまい長続きしなかった。(私はモルモットではありません)全く健康になっている感じがしなかった。それに比べ山は新鮮だった。正に自然のアトラクションそのものだった。

しかし、経験を積んでいくうちに登山は『頭を使う』ことがわかった。それは先ず、計画を立てることから始まる。登山口までのアクセス、駐車場の広さやトイレの有無。コース図を読んで、コース上の水場の位置。累計高低差。必要な装備と食糧。エスケープルート等々。

装備を一つ減らすということは、その減らした分の機能を知識と経験で補わなくてはならない。つまり、補えると確信できるだけの想像力が必要になる。

給水については特に重要で標高の低い山は夏季に登れないし、ロングコースで途中に水場が無ければ営業小屋で購入しなければならない。そうすると小屋の営業期間中に登ることになります。何度か脱水症状で苦しんだ経験から導き出された結果は、登山前に300～500mL、登山中は20分から30分置きに150～250mLを補給するという方法です。行動前に摂取することによって脱水症状は見違えるほど改善されました。

計画通りに行程が進むことは難しいが理想に近づけなければならない。学生の頃に登山部(ワングル部)にでも入っていたら先輩に教えてもらえるようなことが、ネットで調べたり仲間やショップ店員に聞いたりして、百名山も90山を過ぎた頃からいろんなことが分かりはじめてきたように感じた。

◆登山を続けた理由

登山の魅力は人によって異なると思います。挙げてみると…

- ・達成感、爽快感
- ・眺望(特に日の出と日の入りのころが素晴らしい)
- ・有酸素運動(健康維持)
- ・温泉、高山植物など…

私も当然、上記のような要素はありますが、私が推すのは、登山は『自分と向き合う時間をつくる』(無心になれる)からである。家庭のこと、仕事のこと、趣味のこと、そして自分のこと…思い悩むことが多いが自分と向き合うことで難問も解決できることがある。仲間と登るのも楽し

いが、私は単独が基本だと思っている。

昨今の百名山ブームで百名山ハントに批判的な意見が多い。山の混雑とオーバーユース、マナー悪化については同感だが、基本的にはナンセンスなことだと思う。嫌なら登らなければいいだけ。簡単なことだ。私は日本を代表する山(名山)の参考書と思っている。百名山は登山の入り口であって『自分の登山』を模索するヒントにするもの。どのような登山形態(百名山でも、冬山でも、トレランでも)であっても事故が起きなければ個人の嗜好は尊重されるべきだと思う。

◆百名山登頂に必要なもの

よくスポーツや武道では「心・技・体」と言われますが、登山には『技』というほどのものは要りません。(ロッククライミングや沢登りは別ですが)少しの探究心と健康な体は最低限必要ですが、基本的には余暇と交通費があれば百名山は誰でも登れると思われます。

ただ、私が絶対条件と推したいのは車中泊が可能な車です。車中泊は必須となります。私も車中泊を意識した車に変えてから登山が楽になりました。私は寝相が悪く、車のシートを倒して寝ることができません。休憩として5分程度眠ることはできますが、長時間仰向けで寝返りをうてない状態で深く眠ることはできないのです。

私の愛車は日産クリッパー。偶然通りかかった熊谷の日産プリンスで49万円(5年落ち、12,000キロ)でした。5速マニュアルを探していたので即決しました。スモークフィルムとリアアンダーミラー、カーペットを敷いて、3万円弱。総額52万円で日本アルプス仕様としました。我がクリッパーはコスパで見ると最強かと思います。



▲日産クリッパー 日本アルプス仕様

登山での使用を前提とした場合ですが、600万円のキャンピングカーはナンセンスと思います。百名山で1回1万円のホテルに泊まっても100回で100万円だからで

す。ハイエースは車中泊の王者と言われていますが、後輪のタイヤハウスがあるため有効ワイド寸法は130cm(クリッパーは136cm)となります。荷物を多く積めるのは良いのですが、反面、車格があるため登山口の狭い駐車場では不向きです。

一方、軽バンは小さな車体で必要十分なフラットな就寝スペースが確保出来た上、さらに装備が積み込み可能です。小さいがゆえにどんな所(林道の奥の登山口や秘湯の宿など)にも走って行け狭い所に駐車が可能、高速もその気になれば120/kで追越ができます。大きく重いハイエースと比べれば燃費も圧倒的に良く、軽自動車なので当然税金や高速代なども安く済みます。

また、車中泊はパワーウィンドウより手動ウィンドウのほうが使いやすいのです。車内でカセットコンロを使い煮炊きをするので換気のため頻繁にマドを開閉します。ちょっとマドを開閉したいだけなのに、わざわざキーを差して電源オンにしなければならないのは面倒です。しかも走行中は軽バンなら運転席から4つのマドの手動ハンドルに手が届きます。依ってパワーウィンドウはオーバースペックであることがわかります。



▲手動ウィンドウのほうが扱いやすい

車中泊にも注意しなければならないことがあります。6月～9月は海拔1200m以上の場所でなければ暑さで死んでしまいます。要注意です。電池式の蚊取りマットも必需品です。

クリッパーはもう一つの趣味であるモーターパラグライダー



▲モーターパラグライダーエンジンユニット マッハ2 4ブレード

ダーのエンジンユニットも載せることができます。

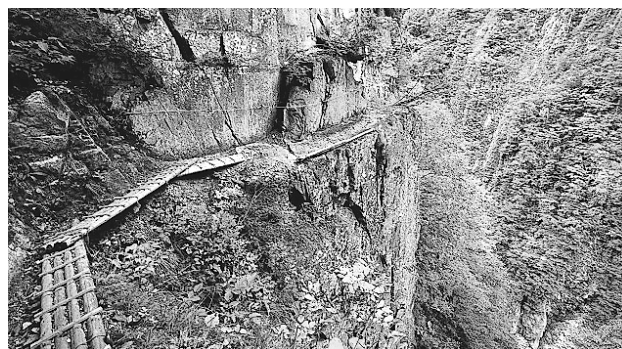
◆百名山登頂を終えて

小さな目標を一つひとつクリアしていった結果が百名山の達成だったように思う。

何もわからないところから自分だけでやっていく過程が楽しかった。僅かだが成長している実感があったのも続けられた理由のひとつである。良かったことも上手くいかなかったこともあった。しかしダメだったことでも、考えて工夫すれば改善できる。ダメなことでも喜びを得るひとつの過程にすぎないと考えられるようになった。どんな問題においても解決策はあると思う。

新しいことに挑戦しなくなったら、それは自分の想像力がなくなってしまったとき。価値ある人生にするために挑戦は必要だ。挑戦して失敗するリスクよりも何も始めないで変化に取り残されるリスクのほうが大きいのではないだろうか。そのため仕事だけではなく、趣味や遊びにも目標を持つことが大切であると信じている。

今後の登山は趣向を変えて秘境温泉を目指してみたい。特に黒部ダムから樺平を結ぶ阿曾原温泉の下の廊下は日本一危険な温泉と言われている。9月まで残雪が有り、1年のうち1か月しか通行できないそうだ。是非、チャレンジしたい。



▲下の廊下

もう一つは高校生の頃からの夢だった。バイクで日本一周を目指してみたい。オートバイに乗って30年以上になるが、3泊以上の旅に出たことがない。温泉巡りをして全国をゆっくり周りたい。

終わりに、ご覧のように何となく始まった登山だったのですが、幸い家族が放任主義(無視???)だったためか6年2ヶ月で無事に百名山を達成することができました。百名山登山にご同行、ご支援をいただきました皆様へ心から感謝を申し上げます。百名山は登山の通過点と考えています。どこかの山中でお会いしましたら是非お声がけください。ご笑覧ありがとうございました。